

第1学年 道徳学習指導案

1組 計28人(男子13人 女子15人)

指導者 T1: 野下 賢剛 T2: 上野 久美

- 1 主 題 名 とことん正直に(1-(4) 誠実・明朗)
読み物資料「金のおの」(学研教育みらい1年)

2 主題について

- (1) 内容項目とその系統 (2) 指導内容についての基本的な立場

【低学年1-(4)】
うそをついたり
ごまかしをしたり
しないで、素直に
伸び伸びと生活す
る。

【中学年1-(4)】
過ちは素直に改
め、正直に明るい
心で元気よく生活
する。

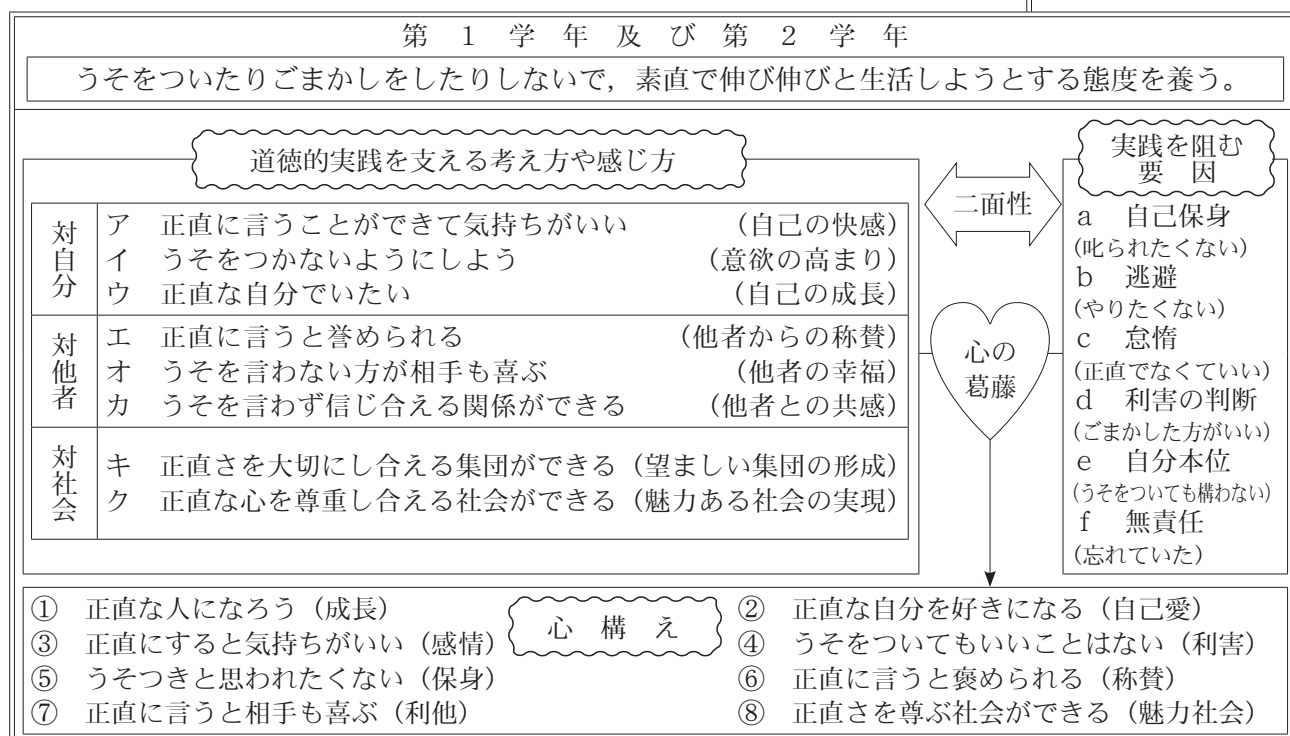
【高学年1-(4)】
誠実に、明るい
心で楽しく生活す
る。

正直な心とは、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと過ごそうとする心の明るさである。自己保身的なうそやごまかしは、あくまでも一時しのぎ的なものであり、真の解決には至らず、他者の信頼を失うどころか、自分自身の中に後悔や自責の念などが生じる。それを乗り越える正直な心を持ち、誠実な生き方を大切にする心を育むことが望まれる。ここでは、正直にすることの大切さや意義を自分の経験や考えとのつながりで理解し、素直で伸び伸びと生活する態度を養うための、大切な考えを身に付けることとなる。

この期の子どもたちは、素直に話を聞き自分の行いを正そうとする傾向がある反面、叱られたり笑われたりすることから逃れるために、うそをついたりごまかしをしたりすることが少なくない。本学級でも、校訓の「負けるな うそを言うな 弱い者をいじめな」に照らして、正直にすることのよさ(自分がすがすがしい気分になる、後から嫌な気持ちにならなくてすむなど)を、日常生活を振り返らせながら考えさせることが度々ある。

そこで、本主題では、正直にすることのよさに目を向け、より広い視点から考えられるようにしていく。正直にすることが自分にとってどのような喜びを生み出すのか、自分以外の人や集団にとってどのような幸福につながるのかを理解できるようにする。そして、主として自分自身に関することに焦点化していくことになる。また、正直にすることのよさに対する意識を高めることによって、正直にするという行為の目的が明確になり、意欲を高めた実践につながることに気付くことができるようにする。これらのことにより、子どもたちが正直で素直に伸び伸びと生活しようとする意欲や態度を育てる。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造



(4) 本主題に関連する体験活動等

【事前】	《関連する体験活動等》	【事後】
○ 「山下の十訓」群読（意識を高めて読んでいたか）	○ 「山下の十訓」群読（意識を高めて読むことができるか）	
○ 給食時間（嫌いな物をごまかさずに食べていたか）	○ 給食時間（嫌いな物をごまかさずに食べることができるか）	
○ 家庭での話題（親に何でも正直に話せていたか）	○ 家庭での話題（親に何でも正直に話することができるか）	
○ 宿題の提出（忘れても正直に伝えることができていたか）	○ 宿題の提出（忘れても正直に伝えることができるか）	

【本 時】

（経験の想起）

11月「とことん正直に」(1-(4) 誠実・明朗)
※ 正直な人になろう (成長)

（よりよい生き方を
目指した行動）

【本時と関連する道徳の時間】

7月「本当のことを言えるかな」(1-(4) 誠実・明朗)

正直に言えてすっきりしたよ。

正直に言わないともやもやする。

は、子どもの意識

※ 導き出したい「大切にしたい考え」… 正直にすると気持ちがいい（感情）

9月「うそをつくとどんな気持ち？」(1-(4) 誠実・明朗)

うそをつくときどきする。

人のせいにしてしまいたい。

※ 導き出したい「大切にしたい考え」… うそをついてもいいことはない（利害）

3 子どもの実態（調査日 平成24年9月10日，調査人数 28人）

(1) 本主題に関する経験場面①

正直にすることができた経験	人数
・ 悪いことをしたことを母に謝った。	1 3
・ 先生に本当のことを言えた。	6
・ 友達に正直にあやまった。	4
・ 友達に隠したゴムのことを言えた。	1
・ 父との約束をやぶったことを言えた。	1
・ 兄の物をこわしたことを言えた。	1
・ 無回答（思い出せない）	2

(2) 本主題に関する経験時の感情

正直にすることができた時の気持ち	人数
・ 言うことができてすっきりした。	1 4
・ よい（温かい）気持ちになった。	7
・ 心が軽くなった。心がほっとした。	2
・ 言わないと自分が悪いからよかった。	1
・ 正直さを褒められてよかった。	1
・ ちゃんと言ってよかった。	1
・ 無回答（思い出せない）	2

(3) 本主題に関する経験場面②

正直にすることができなかった経験	人数
・ 友達や母との約束をやぶった。	1 2
・ 手洗い、歯磨きをしたと言った。	6
・ 宿題をしていないのにしたと言った。	2
・ 寄り道したことをごまかした。	2
・ 祖父にだまっておやつを食べた。	1
・ 嫌いな物を食べたとうそついた。	1
・ 壊した物のことを母に言えなかった。	1
・ ゲームをした時間をごまかした。	1
・ 無回答（思い出せない）	2

(4) 本主題に関する経験の理由

正直にすることができなかった理由	人数
・ 叱られたくなかったから。	7
・ 面倒くさかった。	5
・ けんかしていたから。	4
・ 他にやりたい（やる）ことがあった。	3
・ 忘れていた。間違えた。	3
・ どうしてもそうしかったから。	2
・ うそがばれるのが嫌だったから。	2
・ 無回答（思い出せない）	2

(5) 道徳的価値の意義

正直にするとどんなよいことがあるか	人数
・ 褒められる。	1 0
・ 叱られない。許してくれる。	9
・ 言ってよかった。すっきりする。	5
・ ほっとする。	1
・ 自分が正直に言えたなと思える。	1
・ 友達と仲良くなれる。	1
・ 無回答（分からない）	1

(6) 道徳的価値に対する心構え

正直にするためにどんな考えをもつか	人数
・ 正直に言うぞ。うそを言わないぞ。	1 2
・ 正直な自分になりたい。	5
・ がんばろう。	4
・ 正直な心をもとう。	3
・ 素直にごめんねと言えるようにする。	1
・ 褒められるようにがんばろう。	1
・ 無回答（分からない）	2

【考 察】

(1)から，正直にすることができた経験をたくさんの子どもたちがもち，それらは家庭や学校での経験を想起していることが分かる。(2)から，正直にすることができた時の気持ちとしては，多くの子どもたちが「言うことができてすっきりした」と，自分自身の心地よさを挙げている。また，「正直さを褒められてよかった」と，他者から褒められることの喜びも挙げられている。(3)の正直に言うことができなかった経験では，家庭での様子を中心に挙げられている。(4)の理由としては，自己保身や怠惰な気持ちが主な要因となっていることが分かる。(5)の正直にすることの意義では，正直にすると「褒められる」，「許してくれる」という他律的な考えを強くもっていることが分かる。また，「言ってよかった。すっきりする」という考えもあることが分かる。(6)の正直にするための心構えでは，「正直に言うぞ。うそを言わないぞ」という考えが多かった。また，「正直な自分になり

たい」という自己の成長に目を向けた考えもあることが分かる。

この調査を踏まえ、正直にする場面を学校・家庭を通して広くとらえることができるようにしていきたい。特に、学校での場面については、日常の学校生活や学校行事における関連場面を振り返ることができるようにしたい。そして、指導内容の重点化を図り、主題に関連する「正直な人になろう（成長）」という自分自身の幸せにつながる考えをみんなで話し合い、正直にすることのよさを深く追求していきたい。

4 資料について

(1) 資料のあらすじ

木こりが池におのを落としてしまう。すると池の神様が金のおのを持って現れ、「おまえの落としたおのは、これであろう。」と聞く。木こりは「いいえ。違います。」と正直に告げるのだった。（この後木こりは、神様に褒められたり、金のおのまでもらったりした。）

(2) 資料の分析・子どもの反応予想

場 面	分析（価値構造図 p 148から）	予想される子どもの反応
1 池の神様に金のおのを見せられた木こり 【弱さ・迷い】	イ 意欲の高まり（対自） ウ 自己の成長（対自） c 怠惰（正直でなくていい） d 利害の判断（ごまかした方がいい）	・ ぼくのおのではない。 ・ 正直に言わないと。 ・ ぼくのおのよりいいな。 ・ 金のおのがほしいな。
2 金のおのを自分のものじゃないと言った木こり 【意義】	ア 自己の快感（対自） ウ 自己の成長（対自） ① 成長 ② 自己愛 ③ 感情 ④ 利害 ⑤ 保身 ⑦ 利他	・ 正直に言えてよかった。 ・ これでいいんだ。 ・ 正直に言ってすっきりした。 ・ 正直に言える自分が嬉しい。
3 神様に褒められ金のおのをもらった木こり（劇） 【感動】	ウ 自己の成長（対自） エ 他者からの称賛（対他） ① 成長 ② 自己愛 ③ 感情 ⑤ 保身 ⑥ 称賛	・ 正直に言えてよかった。 ・ これからもうそをつかないぞ。 ・ 正直な自分でいよう。 ・ 正直に言って褒められて嬉しい。

この資料は、金のおのを提示されながら、自分のおのは普通のおのであることを正直に告げることができた木こりを主人公とする話である。自分の物よりも価値ある物を与えられようとしても、正直に自分の物でないと言えるという内容は、自分が欲しいからと自己中心的で安易な考えから、欲しい物を手にしたいと思う傾向がある本学級の子どもたちにとって身近な内容であり、共感しやすい資料であるといえる。子どもたちは、正直にすることを貫き通した主人公に憧憬の思いをもち、自分と重ね合わせて、これから自分も主人公のように正直な人になろうと考えることができるであろう。

今回、金のおのを自分の物と言うか言わないかで迷う木こりの気持ちを中心に話し合い、正直に言うことができた木こりに憧憬の思いをもてるかどうかには焦点を当てる。また、正直に言うことで自分自身にとってどのような意義があるのかを幅広く把握できるようにする。さらに、正直に生きていくための心構えの芽生えを促し、自分が「大切にしたい考え」を見付け出すことができるようにする。このようなことを実現するためにこの資料を活用する。

5 指導に当たって（研究との関連）

- 「見つめる」過程では、資料の主人公の気持ちに共感できるように役割演技を取り入れる。役割演技を通して主人公が正直に言うか言わないかで迷い、正直に言ったことでどのようなよさがあったかを考えることができるようにする。そして、「正直な人になろう」という主題に迫る発問として、「正直にできた主人公をどう思うか。」と問い掛け、意見交換をとおして考えを広げた後、主人公への憧憬の思いがあることを確認する。そこから指導内容の重点化を図り、「正直な人になろう（成長）」という自分自身の成長を志す考えについて話し合いをしていく。
- 「深める」過程では、「見つめる」過程で考えたことを生かしながら、指導内容の重点化を図る。主題に関連する「正直な人になろう（成長）」という考えを取り上げ、重点化して話し合うことで、友達と考えと交流しながら自分の考えを深めることができるようにする。そこでは、「思考活動」を促すための材料として「自分の考え」や「他者の考え」、視点として「過去・現在・未来」を意識して進めるようにする。子どもたちが話し合いの中で、自分の主題に関する経験（過去）を振り返り、「友達と考え」を踏まえて「自分の考え」（現在）をもち、これからどのような考えを大切にしたいか（未来）を見通していく。そして、「自分づくりカード」を活用して正直に生活するための心構えを自覚化する中で、関連する日常生活を想起して「大切にしたい考え」を表現する活動を取り入れる。そのことで、学習後の関連する日常生活の場面において、「大切にしたい考え」をもって実践できそうだという展望を抱けるようにし、実践意欲の向上を図る。

6 本 時

(1) 目 標 正直であることのよさを考え、ごまかさないで明るく生活しようとする心情を育てる。

- 「思考場面1」：資料を通して道徳的価値の意義に迫る場面 「思考活動」：分類・整理する 「材料」：自分の考え、他者の考え 「視点」：対自分、対他者、対集団・社会
- 「思考場面2」：道徳的価値の自覚を深める場面 「思考活動」：自覚化する 「材料」：自分の考え、他者の考え 「視点」：過去、現在、未来

(2) 展 開 は教師の言葉掛け は予想される子どもの反応 は重点評価項目 ☆はICT活用の留意点

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導・評価
気 付 く (5)	1 日常における正直にできたり、できなかったりした場面について考える。 正直にできた時にはどんな気持ちになりますか。また、なぜできない時があるのでしょうか。 正直にできた時にはすっきりします。でも、叱られたくなくて正直にできない時があります。 もっとしょうじきなじぶんになるための「たいせつにしたいかんがえ」はなんだろう。	☆ 実態調査の結果を電子黒板で提示し、その結果について感想を交流できるようにする。 ○ 正直にできた時の快い感情と、正直にできない理由を基に意識と行動の矛盾に共感できるようにし、問題意識を高めたためあての設定ができるようにする。 ○ T2は、板書をしながら、子どもへの共感を示したり考えの把握に努めたりする。
見 つ め る (25)	2 資料「金のおの」を視聴し、主人公の木こりの気持ちを中心に話し合う。 (1) 金のおのを見せられた木こりの気持ちについて話し合う。 正直に言う ・ ぼくのおのではない。 ・ 正直に言わないといけない。 正直に言わない ・ ぼくのおのよりいいな。 ・ 金のおのがほしいな。 迷い (2) 金のおのを「自分のものじゃない。」と言った木こりの気持ちについて話し合う。 ・ 正直に言えてよかった。 ・ 正直に言えた自分が嬉しい。 ・ 欲しかったけどなあ。 (3) 神様に褒められ、金のおのをもらった木こりの気持ちについて話し合う。(意義) 対自 ・ 正直に言うですっきり。 ・ 正直に言えば得をした。 ・ 正直な自分でいよう。 対周 ・ 正直に言えば褒められる。	○ めあてに、深める過程で扱っている「大切にしたい考え」という言葉を入れることで、学習に見通しをもつことができるようにする。 ☆ 資料をデジタル化し、電子黒板で提示する。 ○ 小道具を活用した役割演技を取り入れることで、臨場感を高めて木こりの心情に迫ることができるようにする。 ○ T2は、役割演技の補助をしたり、子どもの考えを板書したりする。 ○ 金のおのをもらったらどんな気持ちになるかを考えさせることで、正直に言わないと気持ちがよくないことを理解できるようにする。
深 め る (13)	3 これからの自分を見つめ、正直にすることに関する「大切にしたい考え」と生活を結び付ける。 「正直な人になろう」と思いますか？ 今まではどうでしたか？ どうしてそう思いますか？ ・ ぼくは木こりのように正直な人になりたいです。ずっと正直にしていっていいと思いました。 ・ 今まで叱られたくないから正直に言えないことがありました。正直な人になりたいです。 これからあなたが自分の生活に生かしたい「大切にしたい考え」は、どんな考えですか。 ぼくは、正直にすると気持ちがいいという考えを大切にしたいです。 これから私は、「正直な人になろう」という考えをもって生活したいです。	☆ 指導内容の重点化を図る場面で、「正直な人になろう」という本主題に関する考えについてみんなで話し合うことで、「過去・現在・未来」の視点から考えを深めている。(自覚化する) 【観察、発言】
高 め る (2)	4 「心のノート」を開き、正直に生活しようという心情を深める。	☆ 関連する生活場面の写真を提示することで、今後の自分の生活を考える心の準備ができるようにする。 ○ 「自分づくりカード」を用いて、本主題に関する「大切にしたい考え」を表現することで、これからの生活への実践意欲が高められるようにする。 ○ T2は、T1と連携しながら机間指導をし、子どもの考えの把握をする。 ☆ 「心のノート」を扱う場面を電子黒板で提示することで、余韻のある終末となるようにする。

第1学年道徳「誠実・明朗」における評価資料			
重点評価項目			
1 正直にすることのよさについての考えを、価値観の類型化を取り入れ分類・整理することで、子どもたちが友達の考えと比べ、多様な考えに気づき、自分の考えを広げている。 2 指導内容の重点化を図り、「正直な人になろう」という本主題に関する考えについてみんなで話し合うことで、自分の考えを深めている。			
評価の観点			
ア 友達の考えと比べ、多様な考えに気づき、自分の考えを広げている。(重点評価項目1) イ 「正直な人になろう」という考えについての話合いに積極的に関わっている。(重点評価項目2) ウ 「正直な人になろう」ということについて自分の考えを深めている。(重点評価項目2)			
評価の実際			
「ア 友達の考えと比べ、多様な考えに気づき、自分の考えを広げる」について(重点評価項目1) ☐ 友達の発言や分類・整理された板書を基に、多様な考えに気づき発言している。【発言・観察】			
〈事前〉	〈事中〉	〈事後〉	
「イ 「正直な人になろう」の話合いに積極的に関わっている。」について(重点評価項目2) ☐ ペアでの話合いに積極的に関わっている。【観察】			
〈事前〉	〈事中〉	〈事後〉	
☐ ② 全体の練り上げの場で、自分の考えを積極的に発言している。【発言・観察】			
〈事前〉	〈事中〉	〈事後〉	
「ウ 「正直な人になろう」について自分の考えを深める。」について(重点評価項目2) ☐ 「正直な人になろう」の話合いをとおして、「大切にしたい考え」を見付け出している。 【「自分づくりカード」】			
〈事前〉	〈事中〉	〈事後〉	